

平成23年12月

[配布先:全組合員]

## 市場情報

日 時 平成23年12月9日 (金) 12時～14時15分  
場 所 大阪ラマダホテル16F  
出席数 酒 匂 委員長他 15名(最終頁参照)  
経 過

### 1. 酒匂委員長挨拶

#### 冬の時代を乗り越えよう

今年1年間を振り返ると、いろいろなことがあったが、東日本大震災をはじめ、円高や欧州債務危機、タイの洪水問題など、良いことは何もなかった気がする。我々鋼材加工・流通業界においては、商社系コイルセンターの再編を皮切りに、シェアリング業界では富士鉄鋼センターと青柳鋼材興業の事業統合や村山鋼材と藤澤鋼板の業務提携が発表されるなど、設備過剰を主因とする構造的問題が表面化した年であった。来年以降も現下の需給ギャップが残存する限り、統合・再編の動きは止まりそうにない。需要面では、建産機など製造業部門の活動は堅調を持続しているものの、生産拠点の海外シフトの勢いが年々加速しており、先行きへの不安が増している。建設関連需要も首都圏を中心に回復が期待されているが、地方は相変わらず低迷状態が続き、トータルの需要量は低減傾向を辿っている。来年そしてその次の年も厳しい冬の時代が続くと見られるが、あまり先を悲観しても仕方がない。いずれ近い将来、先進国の中で、日本がダントツにいい国になると見通しているエコノミストもいるので、激変する状況に浮き足立つことなく、元気を出して頑張りましょう。来年も宜しくお願いいたします。良いお年をお迎えください。

## 2. 各地区の需要動向

### 北海道

#### 橋梁中心に若干回復傾向

期待された素晴らしい紅葉、爽やかな秋。今年は天候不順で木の実が不作となり、山の幸を栄養源として求め歩く「熊」が札幌の街中(なか)まで出没。連日、道内ニュースに取り上げられた。ここに来て 83 年振りの遅い初雪とはいえ、寒波襲来とともに熊騒動は冬眠期へ移り静かになった。

一方、札幌周辺のスキー場は一斉にオープンし、スキーヤーにとって待望の楽しいシーズンとなった。いずれも東洋のサンモリッツといわれ、素晴らしい雪質に温泉・保養施設が完備され、新鮮で美味しい食事が盛り沢山。しかしながら、今年は震災の影響(風評)や超円高で海外からの観光客が見込めそうになく、国内スキーヤーの来道だけが頼りとされ心もとない。

道内景気は「持ち直しの動きに足踏み感が見られる」と、発表された。実際に一部の業種で、そうした動きが見られるが、依然として公共投資の縮減と民間投資の冷え込みにより厳しい状況が続いている。

世界の経済情勢の展望は、欧州危機の拡大により混迷の一途を辿るばかり。つれて、国内経済も、著しい円高に加え株価の大幅な値下がり、ますます混迷感が強まっている。災害復興は勿論のこと、一日も早い経済復興対策が待たれるところである。

**【鉄骨】** 建築着工統計による‘11 年 1～9 月の累計は 90,100 トンで対前年同期実績(89,800 トン)比 100.4%となった。

需要の先行指数となる 1～11 月の北海道機械工業会鉄骨部会道央支部の共同積算数量は、合計 99,723 トンで前年同期(99,119 トン)に比べ 100.6%となった。しかし、平年比では 56.0%と低い水準となっている。

需要構造の中心である鉄骨需要は、著しく冷え込んだ状態が持ち越されている。今後、冬に向かい道央圏の H・M ファブは受注残が若干回復傾向にあるものの、R や J ファブ、とりわけ地方は物件が少ない。見積もり工事もゼネコン同士の競争激化に伴う低価格落札が常態化している。従って、鉄骨加工の単価指値は、相変わらず厳しく「大幅な赤字」で受注しようにも受けることができない状況にある。

計画中の道内大型建築案件も全て来年度になる。12 月以降の先行き見通しについても、不透明観は拭えない。

**【橋梁】** 橋梁需要は、12 月 1 日現在、年度トータルで前年度比 60%強アップの 21,580 トンとなった。超大型案件を除き道内ファブが、ほぼ順調に受注。ファブ間によって受注量に偏重があり稼働にバラツキは見られるが、低調推移であった上期に比べると、下期の加工は上向き傾向にある。

橋梁構造の延命・耐震対策や、補修・補強材としての落橋防止装置も順調に発注されている。ただ、全

体的な関連工事の減少に伴い受注競争が激化し低価格が続いており、鋼材や切板への指値に対する厳しい注文に変わりが無い。

【切板】道内切板の需要構造は、建築向けや土木・橋梁が中心である。首都圏の再開発建築案件をはじめ、その周辺における大型建築鉄骨物件の始動や橋梁の順調な発注が進んでいる。これに対し、道央圏の需要もH・Mの鉄骨ファブや橋梁ファブを中心に若干回復傾向にある。各社の稼働状況にバラツキはあるが、短期間の集中加工や短納期対応。さらに、小ロット多品種・小物・型や異型を中心に、一時的には残業も発生している。

切板価格は、注目されていた幾つかの大型工事物件が、ゼネコンの受注金額が当初予算を25～30%も下回った。当然、鉄骨価格も非常に安くなり、ファブからの切板に対する指値は一段と厳しくなることが予想される。

「シェアリング業界が生き残る」ためには、自らが販売価格を維持し、収益確保を最優先に粘り強く理解を求めること。ゼネコンの安値発注に決して屈することがないよう、それぞれが不退転の決意で望む必要がある。

しかし、高炉メーカーの値上げ以降も切板価格は、まったく底打ち・値戻しが実現していない。高炉や電炉、あるいは輸入材の切板価格や一部本州大型物件の切板価格の値差。さらに、角重量単価と実重量エキストラ加算単価、厚板の高炉価格地域格差について情報が錯綜している。加えて、電炉メーカーの大幅な値下げにより切板の値戻しは一層厳しくなってきた。冬場の不需要期に向かい「値上げが頓挫」。昨年の二の舞にならぬようゼネコンやファブに対し、メーカーと足並みをそろえて「収益確保」に不退転の決意で挑まなければならないことは言うまでもない。

(玉造)

## 東 北

### まだまだ遠い需要回復

冬を迎えた東北地区も、東日本大震災の影響からの立ち直りが顕著に表れており、特に、被災した太平洋沿岸部のファブは復旧関連で忙しくなっていると聞く。一方内陸部は、冬場を向かえ仕事が途切れがちで、地域格差が出て来ております。

復興関連建築物件と言っても、Mグレード以下は10トから30ト以下の小物件が中心で、地場の新規大型案件は他県に流出し、極めて少ない状況が依然続いております。また、Hグレードは関東物件中心ではあるが、安値に疲弊している模様。

橋梁関係は、徐々に発注増加の様相を見せてきているが、関東大手の参入は必至と思われ、地場での加工量に不安があります。

このような状況の下、まとまった量は無いものの、鉄骨・橋梁に拘らず土木関係も含め切断加工量を確保するため、努めている日々です。いずれにしても、市況は大変弱く年明け早々の回復は見込めず、早くして新年度以降と予想しております。

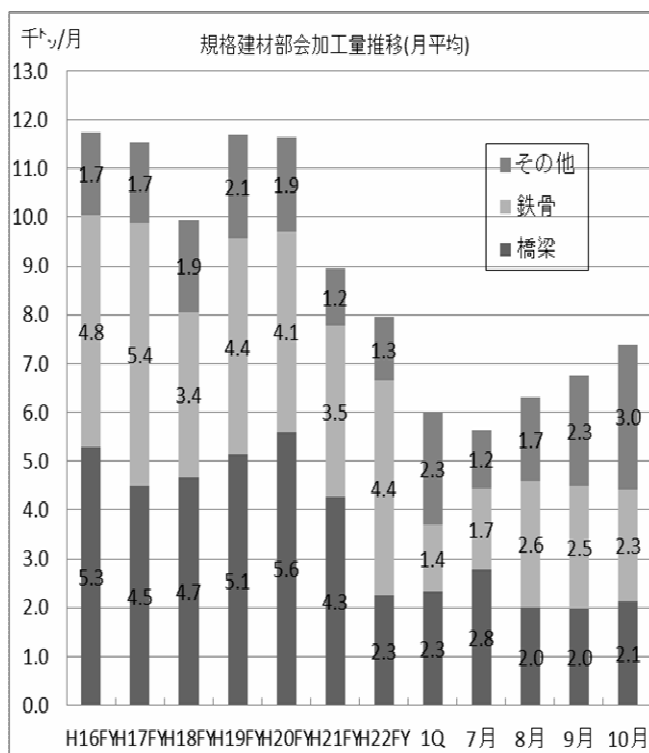
(JFE 鋼材・庄子 悟)

東京

建設、底離れから回復へ

1. 規格建材部会加工量推移

		橋梁	鉄骨	その他	計
H20FY		67.2	49.3	23.2	139.7
	月平均	5.6	4.1	1.9	11.6
H21FY		51.3	42.0	14.2	107.5
	月平均	4.3	3.5	1.2	9.0
H22FY		27.0	52.9	15.5	95.4
	月平均	2.3	4.4	1.3	8.0
	1Q合計	7.0	4.2	6.8	18.0
	月平均	2.3	1.4	2.3	6.0
H	7月	2.8	1.7	1.2	5.6
23	8月	2.0	2.6	1.7	6.3
F	9月	2.0	2.5	2.3	6.8
Y	2Q合計	6.8	6.8	5.2	18.7
	月平均	2.3	2.3	1.7	6.2
	対前期	▲ 0.2	+ 2.6	▲ 1.6	+ 0.8
	対前年	+ 1.1	▲ 6.7	+ 0.9	▲ 4.7
	10月	2.1	2.3	3.0	7.4
	対前月	+ 0.1	▲ 0.2	+ 0.7	+ 0.6
	対前年	▲ 0.1	▲ 3.7	+ 1.8	▲ 2.0



2. H23FY 2Q 及び 10月実績

【全体】

主力の建材分野は、依然低位な活動レベル。土木関連(セグメント等)での物件本格化 や一部の産機需要の増加により、若干のカバーはしているものの、2/四期平均加工量は、6.2 千ト/月と極低位であった1/四期加工量とほぼ同様の規模。

但し、各分野とも徐々に且つ低レベルではあるが回復基調にあり、7月を底に、月を追って加工数量は増加。10月生産量は、7ヶ月振りに7千ト/月に回復。

## 【橋梁】

本年度1/四期入札量(≒シヤの2/四期稼働財源)は、26千トンと少なかったことに加え、2/四期入札量は増加したものの開札(=受注ファブ決定)が遅れたことによって、シヤ加工量は、昨年度並みの低位にて推移。

	H19FY	H20FY	H21FY	上期	下期	H22FY	H23FY						
							1/四	2/四	上期	3/四	4/四	下期	
橋梁入札量	417	324	305	123	160	283	26	68	93	100	94	194	286

## 【鉄骨】

建築着工ベースの鉄骨需要量は、徐々にではあるが回復傾向にあるものの、絶対量として低位。

但し、昨年度後半にピークアウトした首都圏大型案件は、物件数は少ないものの、着工され始めており、シヤ加工量も2千トン/月台へ回復。

	H19FY	H20FY	H21FY	上期	下期	H22FY	H23FY		
							1/四	2/四	上期
鉄骨需要量	642	589	391	215	203	418	113	111	224

## 3. 今後の動向

## 【全体】

- ・主力の建材分野の活動は、低レベルながらも徐々に回復する見込み。
- ・土木関連物件も年度内は継続する見込みであることから、月やシヤ間の跛行性はあるが、加工量は、増加傾向の見通し。

## 【橋梁】

- ・本年度の入札量は、既に286千トンが公表されていることから、昨年度並み(283千トン/年)の規模であることが、確実。入札案件には、関東地方整備局や首都高案件など関東地区案件も多いことに加え、開札案件も着実に伸びていることから、当地区の橋梁ファブやシヤの加工量も増加する見込み。
- ・入開札の本格化は、3/四期であることから、シヤの加工本格化時期は、4/四期からの見通しであるが、一部のシヤでは12月から加工量増加予定。
- ・但し、開札時期のずれ込み傾向は依然として残ることから、開札状況要注視。

## 【鉄骨】

- ・3/四期には、首都圏大型案件の着工規模が増加する見込みであり、それに合わせ当地区 S グレードファブの仕事量及びシヤ加工量も回復見込み。
- ・引き続き首都圏再開案件の着工や震災による中断、延期されていたショッピングセンターや物流案件の再開もあり、今後の鉄骨需要量は増加する予定。
- ・但し、絶対値としての規模は、依然低位であり、GC 間やファブ間の競争状況に変化無く、海外調達志向も高まっており、採算の厳しい状況は継続。

(富士鉄鋼センター・三浦潔司)

## 東 京

## 建産機、好調持続も先行き不安増す

製造業の紐付きを主とするシャーは、需要家の好調な輸出を背景に高い操業を持続、一方店売り部門は短期で見ると受注の増減はあるものの依然低迷状態から脱出出来ずにいる。

部会全般に共通して言えるのは、円高の影響を受けた需要家の輸出減少や海外調達比率向上、生産の海外シフトであろう。数年前からの継続的な動きではあるが、ここに来てそのスピードは一段と勢いを増しているようである。さらに、中国の景気減速や欧州の債務危機で投資環境は急変し、先行きは悲観的になっている。

【建設機械】 10月の統計では内外需共好調、前年比で22ヵ月連続の増加。

- ・油圧ショベル 内外需共堅調でミニショベルも合わせて増産傾向ではあるが、中国での販売不振により現地工場では生産調整が始まっており、これが輸出の減少に繋がっていく不安は残る。

他の新興国の需要が牽引してくれる事を期待したい。

- ・建設用クレーン ラフテレーンは、一時的に復興需要とみられる受注があったものの足元は引き合い一段落の模様。それでも買換え需要は極端には落ちず生産レベルはほぼフルと言える。

輸出も大型を主体に回復しており、需要家の生産台数は震災前比+40%程度となっている。

クローラは震災前に比べ1~2割増加してはいるものの、まだまだ低迷が長引きそう。新興国向けだけは増加基調にあるが、日本を含む先進国の回復の遅れがそれを減殺している。

【鉱山機械】 大型ダンプ、大型・超大型ショベル共、需要家の生産能力上限の受注が続いている。合わせて鉱山用の大型トラクター関連も好調の模様。資源国の旺盛な開発意欲に衰えは見え、この部門は生産海外シフトの不安は一部残るが長期にわたり期待を持てると言えよう。

【重電】 原発事故により国内案件は中断を余儀なくさせられているが、米国向け4基の原発案件は

すでに進捗しており当該シャーは長期の安定加工に入っている。また東電管内における電力不足懸念は減少したものの、全国的な火力発電関連需要は旺盛であり、さらに海外向けの同需要も好調で足元高操業が続いている。

昇降機はピーク時からみると現在の生産基数は大幅減(△35%前後)となっているが、今年度受注は前年比で若干増となっておりますの安定した状態と言える。

- 【 板金・鍛圧 】 10月までの受注は板金・鍛圧共ピーク時の75%程度を維持(工業会)しており、概ね堅調。しかしながら、某社プレス機の来年からの海外生産移管開始や、全般に亘る海外調達比率の上昇、さらには中国の景気減速と円高による輸出減の結果の生産調整等々、先行きは非常に不安視される。タイの工場水没影響での機械買換え需要が予想されているが、まだ具体的な商談は無い模様。
- 【 産機店売り 】 前回報告内容とほぼ変化無く、一時的な受注増はあるものの低迷状態が続いている。この部門も円高や海外調達・海外シフトの影響を受け、客先からは大幅な原価低減要求で苦慮している。

(ニューエイジ・池田啓志)

## 東 京

### 暗雲立ち込める店売り

浦安地区の一般店売りシャーの状況は、低位安定で変化なく、依然暗雲が立ち込めている。足元の手持ち仕事量は2～3日程度で低稼働が続いている。また、一部電炉メーカーの販価引き下げで先安感が漂っている。在庫量は減少傾向にある。スクラップ価格は上伸基調。一喜一憂せず、今しばらく辛抱せざるを得ない。

(三ノ橋鋼材・角田善彦)

## 東 京

### 1～3月期が踏ん張り所

中小一般シャーの足元の稼働は、70～80%程度のところが多い。建築関連需要は、リーマンショックや震災の影響で中断していた先送り案件が出始めているが、この間の新規契約が極めて少なく、このことが急ブレーキをかけているため、なかなか回復実感を肌で感ずるまでに至っていない。

絵に描いた餅では腹は膨れない。2Q以降の需要回復に期待したい。1～3月期をどう乗り切るか、ここが踏ん張りどころである。負け戦にならないように・・・。

(丸東興業・秦弘志)

## 東 海

### 好調の影での海外シフト

中部地区の9月から11月の産建機向ヒモ付・店売シャーの動向は、全体感として、震災の影響を脱して、円高の影響を受けながらも、概ね好調で、思う様に採算ベースに乗せる事は出来ないながらも、仕事量は確保している会社が多くなりました。

ヒモ付シャーの個々のジャンルから見ますと

**建機** **リフト** 11月までは震災前比120%の生産が続いており年内は生産をキープしていくと思われませんが、来年の予定がはっきりせず、ダウンするのではという声があり不安な状態です。

**クレーン他** クレーンは震災後、値引の話がある中、少しづつは出ていますが、中々元には戻らず苦戦をしています。小型の杭打ち機は、今までは少なかったのですが、復興関連で多く発注されています。油圧シャベルは今までは好調に輸出をしていましたが、10月以降、中国の金融引き締めと円高で台数が落ちてきました。

**トラック** 東南アジア向の中小型トラックも相変わらず好調で、平均で月産前年比130%を継続しています。鉱山用の大型ダンプも来年4～5月まではフル生産と言われており、トラック全体好調をキープしています。

**産機** **鍛圧** 自動車用の小型プレスはタイの水害と円高の影響が出て輸出が決まらず、相変わらず低調ですが、中型大型プレス機は円高などの影響もありましたが、順調に生産台数を回復しており、3月までは忙しいと言われていました。

**その他工作機** 自動車メーカーに納入する国内の専用機は、古い専用機を改修して使う場合が多くなり、新しい機械を納入する割合が減ってきています。又、海外向けの専用機も海外で作る話が多くなり、輸出品も少なくなってきました。



- IT専用機** 夏前までは好調だったスマートフォン関係の輸出用IT専用機は、9月に在庫を見越しての生産調整に入り、それに中国の金融引き締めも加わり、生産量が激減しました。
- 造船** **デッキクレーン** 今は好調のデッキクレーンは、以前から言われている様に2013年以降新造船が減るのでデッキクレーンもそれに伴ない減って行くのは明白で、それに備えてヒモ付シャワー業者も生産体制の見直しを始めています。
- 鉄道車輛** 生産は国内車輛から海外車輛・国内地下鉄車輛へ移っており、生産自体の好調は持続していますが、工賃へ対しての20%～30%の値引要請が有り、それに対応するために努力が必要となってきました。
- 昇降機** 輸出用の大型昇降機は決まっているはずですが、中々生産計画に入らず、未だ細かい仕事が多く出ています。海外品との対抗で値引要請が有って、車輛同様それに対応するために努力が必要となってきました。

ヒモ付シャワーは、タイの水害で日本国内で生産する製品が若干増えてはいますが、タイで被害を受けたのが電子部品などの小部品が多く、薄板が多く増えている所はありますが、厚板が大幅に増えたという話はあまり出ていません。

又、今好調なヒモ付シャワーも、ユーザーがどんどん海外にシフトしており、いかに海外の業者と戦うのか、自分たちも海外へ出るのか、残るなら生産体制をいかに変えていくのか。又、海外の値段にどの様に対抗していくのかなど、多くの問題を抱え始めています。決して今、仕事があるからと言って安心はしてられません。

一方、店売業者は、金型や天井クレーンなどの、一時多く出ていた仕事は減りましたが、重架設リースなどの土木関連や破碎機に使う耐摩耗鋼板など復興関連も少しづつ出て来ており、回復の兆しは出て来ています。しかし、相変わらず小ロット短納期で、それに加え、単価も弱含みで、採算が合いません。今は以前の様にまとまった仕事が出にくい状況で、来年から徐々に出てくるであろう、復興特需に期待するしかありません。店売シャワーも受注製品が小ロット短納期化に対して利益を上げていくには生産の効率化、経費削減など、目の前の問題が山積みになっています。

(鈴将鋼材・鈴木康司)

## 東 海

### 中小ファブの受注は好調

建材関係は、H・Mグレードファブの受注が好調で、来年3～4月まで山積み完了している模様。しかし、シャアの仕事量は各社マチマチの状況で、足元50%稼働以下のシャアもある。地元の大型案件は少なく、1～3月期のシャア加工量は前期比横ばい程度とみられる。加工単価も依然低位のまま、シャアの減収減益は避けられない状況。駅前ビル案件についても、地元業者にどれくらい落ちるのか、今のところあまり期待できない。

(中部鋼鉄・南 信年)

## 大 阪

### 今後の橋梁入札に期待

#### 1. 全般

総じて、仕事は少ない。東鉄の@5下げの影響もあり、足元さらに需要が減る可能性あり。

店売りSPOTは、その日暮らして、仕事をかき集めてなんとかやっている。

建機のみ、繁忙している。それでも来年の見通しは、分からない。

#### (2) 輸入材

韓国/ポスコ、現代の輸入が増えている。

#### (3) 与信リスク

製缶業者や小さな特約店などが、倒産している。リーマンショック後から過当競争の状況になり、

中小企業は、非常に厳しい局面を迎えている。

#### 2. 需要部門別

##### (1) 橋梁

入札開札は70%ほど進んでいる。

関西地区の専業FABも受注しだしており、若干明るさも出てきたが、まだまだ数量的には

足りていない。今後の入札に期待している。

##### (2) 鉄骨

関西地区は大型物件少ない。関東地区の再開発案件に期待しているが、発注時期がはっきり

見えていない。名古屋駅前3ビルにも期待しているが、FABはまだ決まっていない模様？  
ゼネコンの受注競争から、鉄骨単価が下がっており、FABもシャリングも採算厳しい。

### (3) 建機

足元は繁忙している。この状況がいつまで続くかが、今後の心配になりつつある。

### (4) 産機

産機・SPOTは、総じて少ない。生産を中国へ移さざるを得ない状況続く。

### (5) 薄板

建機向けのみ好調。東鉄が単価下げのため、様子見も広がり、動きが悪い。

(日鉄神鋼シャーリング・木村秀明)

## 九 州

### 競争力低下、受注厳しく

#### 【産機】

23年9月以降、状況変化はあまり見られないが、為替の影響により、湾岸機械、搬送機等は海外との競争力が低下し、満足な受注は出来ていないうえに、外注にまわすだけの物量もなく、一部をのぞき社内にて加工をしている。受注できたとしても特値の競争になっている、10月以降、更に小ロット・多品種、短納期が目立つようになり、残業や昼夜交代勤務も導入している。

又、ベース厚、薄物の受注により、レーザー、プラズマ切断が増加し、レーザー、プラズマの山が高く、レーザー機を更に導入の検討しているシャーもあるようだ。

一般薄物製缶、タンク材、又クレーン材(更新含む)の引き合い、受注が増加してきている。

又、海外向けの産業機械も若干動き出したようだ。

同じく、震災復興向けと思われる引き合いも増えてきている。

20年9月以降、支給材の加工賃も低レベルで推移しており、適正粗利が確保できるように努めていかねければならない。

## 【建機】

九州の小型建機メーカーは、下期は上期と比較して20%増産の説明があつたが、20%増の内、殆どが海外調達部品となっているため 急激な増加にはつながっていない。

大型建機メーカーの協力企業より、来期は12%増産の数字も出てきている、年度内は海外にて製作部品の在庫が増加し始めたため、部品を輸入し国内で組み立てるために、新たな増加は望めない。

(門倉剪断工業・白水正幸)

## 九 州

## 病院・学校は堅調

- ・ 建築分野は、大型案件がなく、小口中心となっている。比較的大型の案件としては、病院や学校等が中心である。小口中心と言いながら、足元の物件数はそこそこあるが、先行きの不透明感はぬぐえない。ファブの稼働率はおおよそHクラスで、80～90%、Mクラスで50～70%とバラツキが大きい。ファブ間の競争も激しく、収益低迷の状態が続いている。福岡県鉄構工業会の会員数は、1992年の135社から60社へと半減している。
  - ・ 土木分野は、非常に低調のまま、2011年を終わろうとしている。4月～11月までの公共工事請負額は、前年比▲12.6%となっており、北陸・東海地区と並んで、落ち込みが大きい。但し、橋梁案件は、秋口の案件が決まりだし、ようやく来年1月以降から動き出す見込みである。
  - ・ 設備投資関連では、ソニーがスマートフォン需要対応のため、熊本県・長崎県で大型投資を行う。東芝は、北九州工場の閉鎖や大分工場の生産縮小を決定した。また、パナソニックのグループ会社は、鹿児島県での大幅な生産縮小を検討している。九州のIC生産は、9月で6カ月連続の前年割れとなっている。ICの汎用品は、円高で競争の限界まで来ており、日本国内でなく、グローバルな生産体制を構築していくとみられている。
- また、大手重工メーカーは、以前より海外調達を増やしてきたが、ここへきて一層拍車がかかり、その比率を高めようとしている。機械メーカーも同様の動きを模索している会社もある。
- ・ 造船は、なだらかなピッチダウンが進行しているが、比較的堅調な生産を継続している。但し、月を追うごとに輸入材の入着が増えており、同時にブロック品等加工品輸入も模索しており、今後、増加していく可能性がある。加工品の輸入が増えると、国内の加工業者の仕事量減少が

懸念される。

・シャー・溶断業の仕事量は、価格アップまでは至っていないものの、小口需要が中心であるが、10月～11月はフル生産に近かった。先行き不透明ではあるが、12月以降もそこそこ仕事はあると見られる。

(豊鋼材工業・橋本勝美)

### 3. 高木理事長の感想

#### 来年は再生への第一歩の年にしよう

委員各位のご報告を聞いて、足元の状況は地域ごとに色々な色模様が出ており、一言では表現できないが、全体観としては、長らく底を這ってきた需要は、ようやく底離れの時期を迎えている。しばらくはつま先立ちをせず、しっかりと地に着いた経営スタンスが求められている。アンテナをこれまで以上に高くして、情報をいかに経営に生かすかが重要である。経営目線は、より強く“量”から“質（価格・収益）”へ向けるべきで、コストを大胆に削減してでもこれを志向してゆくことが不可避と言える。

来年は、皆さんと一緒に、“再生への第一歩を踏み出す最初の年”にしたいと思っているので、引続き組合員皆様のお力沿えをいただきたい。今年一年、本当に大変でしたが、どうぞ良いお年をお迎え下さい。

(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

委員長・ 酒匂 (京浜産業)  
ゲスト・ 高木 (理事長/富士鉄鋼センター)  
〃 ・ 吉里 (理事総務委員長/J F E鋼材)  
北海道 西村 (玉造株)  
東 北・ 庄子 (J F E鋼材)  
東 京・ 池田 (ニューエイジ)、  
角田 (三ノ橋鋼材)  
三浦 (富士鉄鋼センター)  
秦 (丸東興業)  
東 海・ 鈴木 (鈴将鋼材)  
南 (中部鋼鉄)  
大 阪・ 木村 (日鉄神鋼シャーリング )  
九 州・ 白水 (門倉剪断工業)  
橋本 (豊鋼材工業)  
事務局・ 柘野

#### 4. 次回開催日程

第152回市場委員会

平成24年3月9日(金) 正午～ 於 名古屋

以上